

高原水車

高原水車友の会通信 (第3号)

今年は猛暑と台風、そして火山の噴火と、自然の猛威にさらされた年になりました。自然の営みと共に歩んできた古い水車の保存活動は、4月12日の友の会発足以来様々な活動に取り組んできました。8月以降の動きをご紹介します。

◆友の会活動報告

親子体験学習「讃岐の水車小屋を訪ねる」

瀬戸内海歴史民俗資料館と共催

8月3日(日)は、雨模様でしたが、瀬戸内海歴史民俗資料館公募で高原水車見学に参加された若い親子ずれの方々でにぎやかな空気につつまれました。午前10組、午後10組の予定でした。

高原水車友の会
高松市六条町
高原水車場



題字 森佐知子
カット 平田真咲

前日から予行練習をしておいたのですが、その日は朝から友の会メンバーが、水車場のまわりに幟を立て、駐車場から安全に来ていただくために誘導係が立ち、ぬかるんだ庭には蓑を敷いて歩きやすくしました。

まず最初に、歴史民俗資料館館長のごあいさつがありました。そして友の会企画委員の佐藤さんが、お米や小麦の実物、精米、製粉の過程がわかるように白米や小麦粉、米ぬかやフスマをこどもたちの手元に回して見せました。

次に水車場の製麺機でうどん作りを体験したこどもたちは、粉に直に触ってみました。塩水で捏ねて柔らかさを手で感じたりして、興味しんしんでした。ローラーで圧延された麺帯が出て来ると、そっと麺棒に巻き付ける作業も代わる代わる体験し、また水車の代わりに人力で車を回してみしました。まわりで大人達が心配そうでしたが、無事うどんができて、庭の大釜で茹でたうどんを、試食してもらいました。かまどの火焚きや茹で方は大人

のプロ達が自信を持ってやりましたから、良い味に仕上がりました。

また水車の仕組みを学習するグループは、川から水を取り入れる取水口を見て、水車本体の大きさや水の落ち口、動力が歯車や石臼に伝わる仕組み、さらに独特の搬送システムで碾かれた小麦がガンドで細かい粉になって落ちてくる様子を想像したりしました。

小学生11人、保護者9人の参加でした。感想文も書いていただき、午前の部が終わったとき、香川県に「大雨警報」が出てしまい、午後は中止となりました。

見学者の数より友の会スタッフが多いほどでしたが、無事作業を終え、ほっとして午後はミーティングルームで反省会をおこなうことができました。



「絵の具が雨で流れないかしら」と心配そう。

☆昔の人の知恵やかしこさを学ぶことができた。

☆水車場の仕組みがすごいと思った。製粉機が動かないのは残念。

☆古い文化財に触れる絶好の機会だった。

☆水車が動くのを見た。

☆お世話の方が皆親切だった。

【アンケート回答より】



佐藤さんが米と麦について説明。
「小麦の穂はどれかな？」



資料館専門職員の田井さんが、水車について説明。

そばろ状に鍊ったうどん粉を鉄のローラーの間を数回通します。麺がだんだんしつとりしてきます。



「粉にさわってごらん」 塩水を加えて小麦粉をゆっくりこねます。



「取水口から暗渠を通過して水車まで水が流れてきます」 足元では蕨が大活躍しました。



「ここが取水口です」



「石臼で碾かれた粗い粉が、この下を木製のコンベアーのようなもので送られていきます」



「水車の動きが歯車や石臼に伝わる所です。万力（まんりき）といいます」



手作りのかまどで火を焚いて、大鍋でうどんを茹でます。手慣れたおとなたちです。



ガンド（行灯飾）の前で熱心にノートを取る小学生達。



うどんを試食。「おいしい！」



上右：紙芝居を見せる川崎さん
上左：床を修理した部屋でミーティング。
左：苅を洗って干す。重かった。



泥水とともに丸太が出てきた。

水車本体の修理の前に、下流の水路の浚渫をと、前回の旧古川浚渫に続いて、暗渠の泥土を掃除しました。丸太に釘などで突起を付け約30メートルの水路を行ったり来たり、地上ではロープを引いて西へ東へと、おもしろい作業になりました。その時取水口の水門を開け、流した水は轟音を立てて水車の下へ落ちて行きました。水とともに暗渠の泥土も下流へと流れました。

水路（暗渠）の掃除は煙突掃除方式で

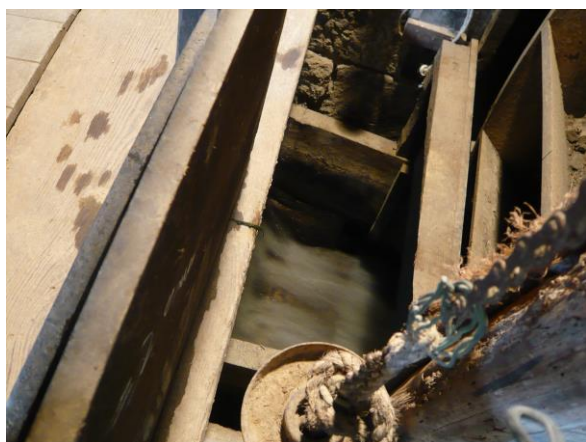
9月27日（土）



滑車を付けてロープが縊れないように見張る。



ロープを東へ引くと丸太は西へ。



音を立てて水車の下へ水が落ちていく。



丸太が出てきた。水量も調節しながら作業。

■水車復元に向けて

「早く水車が回るところを見たい」と気持ちにはやりますが、材料を調べ、伝統工法で構築するには課題が山積しています。

8月2日(土)に久留米市から池森寛先生と野瀬秀拓水車大工棟梁が見え、水車の計測をされました。現在野瀬棟梁は図面を作製中です。まだ長い道のりだと思われます。



池森先生と野瀬棟梁、地元香川の若い大工さん

■製麺機木製土台レプリカ作製

これまでうどん作りによく働いてくれた製麺機ですが、木製土台は腐食が進み、古いものを保存しながら、同等の材料(松)で土台を作ることになりました。(9月29日)



今後の課題(8月30日の話し合いより)

水車の復元新造に取りかかる

製麺機木製土台のレプリカ作製(進行中)

水路掃除(↓暗渠浚渫は現在進行中)

水車小屋の建物調査と危険箇所補強

鉄製機械部分(プリー周辺)の調査

建物の修繕・活用を考える

外トイレの設置

納屋の棚設置など改造計画作成(進行中)

大型農機具の置き場所検討

展示方法を考える

モニターで映像を写す

水車ユニットその他の収蔵と展示

古文書などの収蔵と展示

手回し石臼(↓森野さんから寄贈あり)

水車パンフレットの作成(わかりやすく)

次回水車講座の計画(小麦粉のこと・臼のこと)

他地域の水車見学(徳島 土成の水車予定)

ゴミ除け作り(モロダ・網)

かまど用の薪作り

製麺機クリーニングシート用意

製麺機用オイル購入 消毒液(手の消毒)常備

古いモロダのゴミよけ・蓋の保管

樹木などの伐採整備

水車場と周辺敷地全体の将来像を考える



水車見学バス旅行

ご案内

行き先 徳島県阿波市土成町

「道の駅となり」の水車

〈水車粉屋〉水輪直径4メートル

木製歯車と石臼

日時 十一月二十九日(土)

午前9時 六条町高原水車集合

マイクロバス(二十人)

自家用車

午後4時頃 帰宅

現地案内 鈴田様(元役場職員)

昼食 現地で。「たらいうどん」もあります。

費用 1000円

*讃岐路の最後の紅葉も楽しめます。

お申し込み

ご希望の方は十一月十五日までに

堀家 0877(33)4601

または平田 emhirata@nifty.com

今後、見学されたい場所がありましたらお知らせ下さい

福武財団瀬戸内海文化研究活動助成をうけて活動しています

高原水車友の会活動日誌及び予定

【2014年】前半は会報第2号に

8月2日 池森・野瀬両氏水車計測

3日 親子体験学習「讃岐の水車小屋を訪ねる」瀬戸内海歴史民俗資料館と共催

8月30日 水車場公開 見学者あり

今後の課題について話し合い

9月27日 水車場公開

水車下流暗渠浚渫作業

29日 製麵機土台レプリカ作製へ

10月5日 納屋の棚設置など改造提案と寸法取り実施

8日 納屋西側竹藪伐採始める

25日 水車場公開

暗渠浚渫作業

11月29日 水車見学(バス旅行)

徳島県阿波市土成町

「道の駅となり」の水車

12月 月末活動はお休み

新春 1月30日31日より開始

建物危険箇所調査、水車復元準備など

3月には総会・水車講座も予定しています。

*毎月末(金)(土)は活動日。

(土)は水車場公開日

高原水車友の会 連絡先

0877(33)4601 堀家